

「救いたい心」をつむぐコミュニケーションマガジン

赤十字 NEWS

Japanese Red Cross Society NEWS

SEPTEMBER 2021 NO.976

<https://www.jrc.or.jp>

令和3年9月1日(毎月1日発行) 赤十字新聞 第976号 昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

9



わたしも赤十字 寄付の協力者 高橋安子 (たかはし・やすこ) さん【P.4でご紹介】

特集

知ってほしい！ 避難の妨げになる

正常性バイアス・同調性バイアス

赤十字の最新情報を、SNSでチェック！



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3 TEL: 03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。

 **日本赤十字社**
Japanese Red Cross Society



知ってほしい！ 避難の妨げになる 正常性バイアス 同調性バイアス

9月1日は防災の日。そして8月30日から9月5日までは国の定めた防災週間です。日本赤十字社はこれらに合わせて、災害時に働く2つの心理について、啓発キャンペーンを展開します。「災害時、ある心の動きが避難を遅らせる」…誰にでも起こり得る災害時の課題と一緒に乗り越えましょう。

災害時には避難の遅れにつながる！ 「正常性バイアス」と「同調性バイアス」という心理

まずは簡単な診断テストに答えてください。

Q. 職場や学校、外出先で非常ベルが鳴っているのを聞いた時、あなたはどうしましたか？

- A.
- | | |
|--------------------|-----------------------|
| ①点検だと思って何もしなかった | ②皆が避難していないので、大丈夫だと思った |
| ③煙が出ていないし、大丈夫だと思った | ④安全な場所に避難した |

これは、簡単にできる「正常性バイアス」と「同調性バイアス」の診断方法です。この中でバイアス(先入観・偏見)がないのは④のみ。①～③には下記のバイアスがあります。

「これくらいなら大丈夫」 正常性バイアス

上の質問で回答①は「非常ベル」＝「点検」という過去の先入観から自分にとって危険な状況と認識できない正常性バイアスが働いています。また、③は「非常ベル」＝「火事」＝「煙が見える」という固定観念から、火事以外の危険の可能性のあることを認識しない正常性バイアスが働いています。正常性バイアスは、異常なことが起こった時に「大したことじゃない」と落ち着こうとする心の安定機能のようなもの。日常生活では、不安や心配を減らす役割があります。しかし、緊急事態では逃げ遅れなど、危険に巻き込まれる原因にもなります。



「皆と一緒にだから大丈夫」 同調性バイアス

上記の回答②は非常ベルが鳴って危機的状況が知らされているにもかかわらず、周囲の人の行動に合わせる同調性バイアスが働いています。同調性バイアスは、集団の中にいるとつい他人と同じ行動をとってしまう心理で、日常生活では協調性につながります。しかし、災害時には周囲の人の様子をうかがっているうちに避難が遅れる原因にもなります。その反対に周囲に率先して避難する人がいれば、より多くの人を避難に導くことも可能です。



災害時に働くこの2つの心理を知っておくことが、逃げ遅れを防ぎます。

監修者インタビュー キャンペーンの内容制作を監修して

私の専門は災害心理学で、地震などの災害時に人間がどのような心理になり、どう行動するかを研究テーマにしています。2011年の東日本大震災発生から3年後に、被災された方々へのインタビュー調査を行い、津波発生時の心理や行動についてお話をうかがいました。その際に、地震発生後に海の様子を見に行った男性が、沖合から津波が迫ってくるのを目撃し、慌てて自転車で内陸に逃げながら「津波が来る！今すぐ逃げろ！」と大声で呼び掛けたにもかかわらず、多くの住民は聞く耳を持たない、中には「うるさい」と言い返された、という体験談を聞きました。あれほどの津波は予測できなかったもので、それは仕方のない反応だったのかもしれませんが、でも一方で、地震の後にすぐ高台に避難した住民の方々や、上司のひと声で工場全員が避難した事例など、素早い避難行動で助かったと

いう体験談もありました。さきほどの自転車の体験談は「正常性バイアス」の事例の一つです。この「正常性バイアス」は、さまざまな災害の場面でみられ、東日本大震災だけでなく、水害などのように、少しずつ状況が変化して徐々に危険度が増していくような災害でよく見られます。危険が迫るなか、「まだ大丈夫」となかなか避難せず、逃げ遅れてしまうことがあります。もう一つの「同調性バイアス」も含めて、大切なことは、こういった心理が働き、今の自分は危機を認識できていないかもしれない、避難が遅れているのかもしれないという意識を持つことです。人間の深い心理を、今日明日で変えることは難しいので、まずは二つの心理があることを知り、身近なところから少しずつ備えの意識を高めていくことが、防災・減災の総合力強化につながると考えます。



常葉大学 大学院
環境防災研究科
准教授
河本 尋子 さん

啓発キャンペーン動画紹介 心が落ち着く特別なメガネ。でも、掛けていることを忘れてと…

あなたも掛けている「不安が見えなくなるメガネ」

ある男性が仕事の失敗で落ち込んでいると、不思議な男が特別なメガネをすすめてくれました…



メガネのおかげで不安が見えなくなった男性。ところが災害が発生すると…




メガネを掛けた男の運命やいかに！？
「正常性バイアス」「同調性バイアス」の理解がすすむキャンペーン動画はコチラから！⇒



「ACTION! 防災・減災」特設サイトで命を守る情報を！

災害が起きたその時、あなたは適切な避難行動を取ることが出来ますか？「ACTION! 防災・減災」プロジェクトの特設サイトでは、避難に役立つ情報や災害に備えるノウハウなどをまとめ、読めば必ず防災力が高まるコンテンツを掲載しています。この機会にチェックして、あなたの周りにも「命を守る」情報をシェアしましょう！

詳しくはコチラ





危険が迫っている時に、情報で命を救う！

「# SNS 情報レスキュー」はじめました

日本赤十字社は SNS (Twitter、Facebook) を活用して、新たな啓発活動をはじめました。迫りくる災害や季節の事故に備え、年間を通じて**命を守るための大切な情報**を発信します。あなたも日赤の公式 SNS に登録し、命を守る情報をタイムリーに受け取りましょう！



どんな時に？

土砂災害、豪雨災害などの発生が懸念される時や、熱中症などの季節性の病気・事故の心配がある時に、タイムリーに！

発信されるタイミングは下記のような危険が迫っている時やニーズが高まっている時を予定しています。(一部を抜粋)

- <台風・大雨> ●土砂災害の前兆 ●強風注意 ●河川・山間部の避難所確認 ●備蓄・避難準備
- <地震> ●通電火災 ●災害伝言サービス ●余震倒壊注意
- <季節の病気・事故> ●水難事故対策 ●熱中症対策 ●餅を喉に詰まらせた ●ヒートショック

どんな情報が？

下記のように、「命を守る」情報です。わかりやすいイラスト付きの投稿で、適切な避難行動を促し、防災・減災の意識を喚起します。

●土砂災害が発生しそうな時



●台風が近づいている時



●水辺での事故が増える時



さらに！9月1日から公式Instagramもスタート！命を守るメッセージのフォロー&拡散をお願いします。
https://www.instagram.com/japaneseredcross_official/



わたしも赤十字

今月の表紙

赤十字にはさまざまな形で赤十字の活動に参加する支援者がいます。全国の支援者の中から毎月お一人を、温かいメッセージと共にご紹介いたします。

医師と看護師、夫婦で実践した赤十字精神 変わらぬ思いで続けた寄付



寄付の協力者

たかはしやすこ
高橋安子さん

三重県多気郡/89歳



山田赤十字看護専門学校の前で仲間と。上段左から4人目が高橋さん

私は山田赤十字看護専門学校*の卒業生です。戦争中で物が無い時代でしたが、仲間と小さな火鉢を囲む寮生活は皆が1つになり楽しい日々でした。当時研修医だった主人とはそこで出会いました。第二次世界大戦後、日赤が行った中国からの引き揚げ事業では山田赤十字病院に白羽の矢が立ち、昭和28年、主人も乗船して救護に当たりました。主人は医者でない村で育ち、幼い頃の経験から困っている人を助けたいと医師を志した人です。誰も行きがたない場所へも率先して行き治療に励みました。

私は結婚後も看護師を続け、主人が肺結核にかかったときは家族のために必死で働きましたし、子連れで往診するなど、開業してからも夫婦二人三脚でよく頑張ったと思います。また、校医を務める学校に備品を寄付したり、地域や子どものために惜しむことなく利益を還元しました。いまだに良い先生だったと言われるほどの自慢の主人です。

忙しくても医者は趣味を持つことで人間性が育まれるという主人の言葉を胸に、絵を描いたり、花や

野菜を育てる日々ですが、昔から夫婦で当たり前になっていた寄付を少額ながら続けています。お世話になった赤十字への恩返しにと始めた寄付。自分のできるかぎりを尽くし、困っている人に少しでも手を差し伸べられたらという思いです。主人の没後、古い有功章が仏壇の引き出しから見つかりました。義父も義祖父も、大正の頃から会員だったと知って、赤十字とのご縁を感じています。

* 山田赤十字病院(現在の伊勢赤十字病院)に併設、2006年に閉校

寄付するあなたも赤十字です

- クレジットカードで寄付
- 郵便局・銀行の口座振替
- 郵便局・銀行の窓口
- お近くの日本赤十字社窓口



災害義援金、受付中



度重なる台風、大雨などの災害により、各地に甚大な被害が生じています。この災害で被災された方々を支援するため、下記の通り義援金を受け付けています。皆さまからお寄せいただいた義援金は、被災県が設置する義援金配分委員会へ全額をお届けします。皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

8月の大雨災害で浸水した佐賀県大町町付近の様子

日赤の災害対応

日本赤十字社は災害発生時に被災者へ支援物資を配付し、被災地で救護活動を行うほか、日頃の備えとして防災セミナーや救急法の講習などを全国各地で開催しています。これらのいのちを救う活動は皆さまからの活動資金へのご寄付に支えられています。



8月に佐賀県内で大雨災害が発生した日赤佐賀県支部の活動の様子

協力方法

[1] 郵便振替によるご協力(ゆうちょ銀行・郵便局)

①令和3年台風第9号等大雨災害義援金

(送金先：青森県)

口座記号番号 00180-9-731285

口座加入者名 日赤令和3年台風第9号等大雨災害義援金

受付期間 令和3年12月28日(火)まで

②令和3年8月大雨災害義援金

(配分先：福岡県・佐賀県など。詳細は日赤ホームページでご確認ください)

口座記号番号 00190-2-697167

口座加入者名 日赤令和3年8月大雨災害義援金

受付期間 令和4年3月31日(木)まで

[2] 銀行振り込みによるご協力

三菱UFJ銀行、三井住友銀行、みずほ銀行などへ振り込み可能です。詳しくは日赤ホームページでご確認ください。

国内災害義援金へのご寄付について
詳細はコチラをご確認ください。 ⇒⇒



日赤 災害義援金 検索

※ゆうちょ銀行の振込用紙の半券や金融機関の振込時の利用明細書を受領証の代わりとして、寄附金控除の申請にお使いいただけます。
※郵便局の窓口でのお振り込みの場合は、振込手数料が免除されます。
(ATMによる通常振り込みおよびゆうちょダイレクトをご利用の場合は、所定の手数料がかかります)

赤十字活動へのご寄付について
詳細はコチラをご確認ください。 ⇒⇒



東大脳に挑め!

知識を深める赤十字QUIZ

出題 東京大学クイズ研究会(TQC)

知ってるつもりでも、意外と知らない赤十字のこと。東大クイズ研が手掛ける問題にあなたは正解できる!?

こんにちは、東京大学クイズ研究会(TQC)です！今回でこの連載も6回目となりました。今月のテーマは、「関東大震災と赤十字」です。今から100年ほど前の1923年9月1日に関東大震災が発生しました。大きな被害を受けた日本に対し、世界各国の赤十字社は支援を惜しみませんでした。今回のクイズは関東大震災での支援物資にまつわる問題です！



今月のクイズ

難易度：★★★

明治・大正時代、下記①～④のお酒はすべて医薬品として使用されていましたが、関東大震災の際にアメリカ赤十字社から救援物資として送られたものはどれでしょう？

シント
アメリカにも有名な産地があり、地名をとった種類もあります

- 1 赤葡萄酒 (赤ワイン)
- 2 武蘭典酒 (ブランデー)
- 3 火酒 (ウイスキー)
- 4 該里酒 (シェリー酒)

答えはP.6へ

AREA NEWS

全国各地
あなたの生活のすぐそばで
日本赤十字社の活動は行われています。

長野県

看護学生が小児病棟で実習体験 教科書では学べない気づきを学ぶ

長野赤十字看護専門学校では、学生たちが医療や福祉の現場へ向かってさまざまな実習を行っています。小さな子どもの看護や接し方を学ぶ小児看護学の実習では、学生が手作りした七夕飾りを小児病棟の子どもたちにプレゼント。声を掛けたり触れ合ったりという体験を通じて子ども一人一人の個性を理解し、その子や家族の考え方に合わせた最適な看護を学んでいます。



実習を通してやさしさと思いやりの心を持った看護師を目指す

東大問題に挑戦! クイズの答え

3 火酒 (ウイスキー)

関東大震災のニュースは、なんとアメリカでは地震発生から12時間後の現地時間9月1日の夕刊に掲載されています。驚異的なスピードでの報道の立役者となったのが福島県にあった国際無線局でした。その後わずか数日で支援プロジェクトが立ち上がり、アメリカ赤十字社の日本救済基金は最終的に2500万ドルに及びました。募金とともに物資の支援も積極的に行われ、病院機能一式や大型テントが提供され、被災各地に赤十字社の仮設病院が設置されました。

群馬県

リモートでも意欲はじゅうぶん! 県内初の防災オンライン講習

日赤群馬県支部は7月15日、青少年赤十字加盟校の館林市立第三小学校で県内初となる防災教育のオンライン講習を行いました。当日は支部と教室をネットをつなぎ、防災教材「まもるいのち、ひろめる防災」の映像を使って講習を実施。児童たちはモニター越しの支部職員の見聞に聞き入り、質問の際は積極的に手を挙げるなど、防災学習に真剣に取り組んでいました。



質問や発言をするために、競うように手を上げる小学生たち

千葉県

夏本番! 水の事故から命を守る「水上安全法」講習 感染対策をしながら全国各地で開催

去年はほとんどの地域で中止になった水上安全法の講習。今年は水の事故が増える夏休み前に、それぞれの地域で感染対策の工夫をして再開しました。

7月9日、日赤千葉県支部は小学校で、安全水泳奉仕団による「水難事故防止講習」を開催。コロナ禍前はプールで着衣泳講習を実施していましたが、今年は水泳授業が中止のため、体育館で感染対策をしながら、ライフジャケットの装着法や水に浮く「浮き身」の姿勢を指導しました。

7月17日、岡山県支部は市民プールで「水上安全法短期講習」を開催。従来の大人向けの内容を子どもも受けられるようにし、楽しく安全に学ぼう!をテーマに親子で参加する講習にしました。市民プールに集まった親子は衣服を身につけた状態で水に落ちた時の対応や、泳がなくてもできる救助の方法などを体験しました。

岐阜県

地元特産ひのきの端材で工作 SDGsを学ぶ青少年赤十字

7月20日、青少年赤十字加盟校である東白川村立東白川中学校で「ふるさと学習」が開催されました。SDGs(持続可能な開発目標)を念頭に置いた取り組みの一つで、今回の授業では全校生徒が地元の特産品である東濃ひのきの端材を使ったコースター作りに挑戦。生徒たちは林業や森林の重要性も学びながら青少年赤十字マークが刻印されたコースターを完成させました。



地域ブランドの東濃ひのきはピンク色で艶があるなどの魅力を持つ

岡山県

平成30年7月豪雨災害から3年 追悼と復興への願いを込めて…

日赤岡山県支部は7月3日に開催された「真備追悼復興3年祭」に参加し、被災地で活動した車両や救護テントの展示を行ったほか、亡くなられた方々の追悼と一日も早い復興を来場者とともに祈念しました。この追悼行事は平成30年7月豪雨災害の発生から3年の節目に実施されたもの。夜には鎮魂と復興の願いを込めて打ち上げられた花火が会場の空を彩りました。



災害時に活躍したさまざまな車両が並び、子どもたちも大喜び

徳島県

笑顔いっぱい、乳児院の夏祭り みんなで「やっとなー!」

徳島赤十字乳児院では、季節を大切にしながら、多くの行事を実施しています。7月16日、恒例の院内夏祭り、職員お手製の出店と、阿波踊りが披露されました。手の込んだ飾り付けや楽しい出店に、小さな子どもたちもニコニコ。締めくくりに阿波踊りでは、職員が演奏する鳴り物と踊りに合わせて、子どもたちも「やっとなー!」と元気いっぱいに踊りました。



「楽しい思い出を作りたい」と行事に力を入れる職員

大阪府

大阪赤十字病院、夏休みの体験型イベントを進化させ オンライン防災イベント「災育ランド」を公開中

大阪赤十字病院では毎年8月に、小学校4~6年生と保護者を対象にした体験型防災イベントを開催しています。昨年はコロナ禍の影響でイベントが中止になったことから、今年はオンラインでの実施を目指して計画を進め、インターネット上にバーチャル会場「災育ランド」を開発。画面にはユーモアたっぷりの24のブースがあり、イラストをクリックするとそのテーマのページが開きます。「家具の固定」「応急手当教室」といった知識を楽しみながら学べるほか、遊び心のある仕掛けの「地底へ」という不思議な入り口も…(「地底」には、さらなる学びの空間が広がります)。公開は9月30日まで。災害発生時に何が起るのか、どう行動すればよいか、ご家族で考えていただくきっかけとして、ぜひご利用ください。



(上)最初の画面。消防局や自衛隊とのコラボページも(下)応急手当教室

高知県

他県の仲間の行動に奮い立ち ワクチン接種会場でボランティア

日赤高知県支部の高知県赤十字奉仕団がワクチン接種会場でボランティア活動を行いました。この活動の契機となったのは、本誌6月号で取り上げた滋賀県の赤十字奉仕団によるワクチン接種会場の取り組み。仲間と触れられる形で行政に協力を申し出たところ、受付補助や接種者が使用したバンダーや車椅子の清拭など、ボランティア活動の実施に至りました。



「自分たちの地域でもできることがある」という思いが結集した

ハイチ地震災害 救援金受付

ハイチ共和国で8月14日に発生した地震により、大きな被害が出ています。被災された方の救援およびハイチ共和国での赤十字の人道支援のため、海外救援金を募集いたします。

2021年ハイチ地震救援金

2021年11月30日(火)まで

詳細は日赤のホームページをご確認ください。

2021年ハイチ地震救援金 検索

ニッポンの赤十字ゆかりの地を巡る

vol.6

赤十字名所紀行

日本・トルコ友好の証し、約130年前の遭難救護を今に伝える

明治23年9月16日、本州最南端、和歌山県樫野崎(現東牟婁郡串本町大島)沖で、トルコの軍艦エルトゥール号が暴風雨のため座礁沈没し乗員587人が命を落とす大事故となりました。明治天皇にオスマン皇帝からの親書を奉呈する大役を務めた、オスマン・パシャ特派大使海軍少将の一行が横浜港を出港してわずか2日後の出来事でした。地元住民による懸命な救護活動で奇跡的に救われた乗組員69人は神戸へ搬送され、日赤などが派遣した医師・看護師による治療を受けました。言語や習慣の違いを乗り越えた献身的な看護の心もあり、10月10日、明治天皇が遣わした日本の軍艦で生存者全員がトルコに帰還することができました。これは日赤が初めて外国人を対象に行った救護活動として知られ、エルトゥール号の模型や遺品などが展示されるトルコ記念館に隣接して平時国際救護発祥の地碑が建てられています。



全長79.2mにも及ぶ軍艦エルトゥール号

平時国際救護発祥の地碑 (和歌山県東牟婁郡)



友好125周年記念で2015年に合作映画「海難1890」が製作された

「赤十字を応援!」プレゼント

パートナー企業紹介 vol.18

株式会社AIRDO



コロナ禍の苦境の中、「北海道の翼」として応援メッセージ動画を発信!



こども食堂北海道ネットワーク 松本克博事務局長(中央)へ機内販売商品を寄贈

1996年創業のAIRDOは、創業時の思いを今も引き継ぎ、「人を育てる」「(北海道の)自然を大切に」「社会に貢献する(災害復興支援)」ことを3つの柱に定め、道内就航6地域での植樹活動「エア・ドゥ絆の森」など、地域社会と連携したCSR活動に取り組んでいます。また災害時には東日本大震災、平成30年北海道胆振東部地震、令和元年台風第19号に対する義援金および災害支援者移動協力、救援物資の移送協力、臨時便の運航など、日赤の災害復興支援に協力を続けてきました。コロナ禍で北海道の観光資源が大ダメージを受ける中、今できる地域貢献の取り組みとして、医療従事者の方々への機内食の寄贈、子ども食堂への機内販売商品の寄贈などを行っています。また、北海道にゆかりのある著名人らが賛同する企画「北海道応援メッセージ」を全国で募集、人気アーティストのGLAY賞や北海道知事賞などに選ばれた作品と北海道名所の写真で構成された動画を作製し、YouTubeで公開しています。

北海道応援メッセージ動画はこちら



マスクケースセット
20名さまに



国産不織布マスク5枚とオリジナルデザインのマスクケースをセットで

商品写真はイメージです

上記プレゼント希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・WEBでご応募ください。①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤赤十字NEWS 9月号を手に入れた場所(例/献血ルーム) ⑥9月号に関するご意見・ご感想

郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS 9月号プレゼント係
FAX/03-6679-0785 WEB応募/右の2次元バーコードから応募ください。
9月30日(木)必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

こちらから
応募
できます



WORLD NEWS

世界を救うデジタル技術



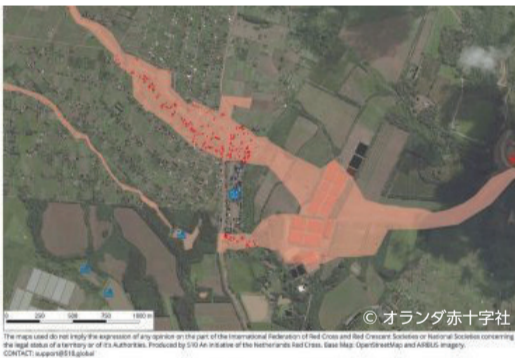
コロナ禍でニーズが高まる 人道支援のICT活用

デジタル技術の発展とともに、人道支援の現場で用いるツールも進化してきました。各国の赤十字で広がるICT(情報通信技術)の活用事例をレポートします。

混乱する支援現場をデータで支える デジタルボランティアチーム

近頃よく耳にする「ICT」という言葉。「Information and Communication Technology」の略で「情報通信技術」を意味します。世界中の医療や教育分野で急速に進むデジタル化を支えているのがICTです。赤十字でもICTを積極的に取り入れています。2018年5月、豪雨によってダムが決壊し、ケニア中部の町で起きた大規模災害では、オランダ赤十字社の支援により立ち上がったデジタルボランティアチームが大活躍しました。

現地では多数の犠牲者が出たほか、多くの人々が避難を強いられていました。ところが



ケニアでは地図作成ツールを使った支援が現場の救援活動の貴重な情報に

被災状況を確認できる正確な地図がなかったため、救援活動は混迷を極めていたのです。

デジタルチームはただちに現地と連携。衛星画像などのデータをもとに、被災前にあった道路や建物の位置を精緻に示した地図を作成しました。この地図によって救援活動がスムーズに行われたほか、被災者数を推計する手がかりとして、支援規模・体制を決定する貴重な情報にもなりました。

コロナ禍においてもオランダ赤十字社のICTが活用されています。オランダ領キュラソーを含むカリブ海諸島は観光業に従事する住民が多く、感染拡大によって経済的に深刻な打撃を受けています。食料支援が急務となりましたが、この地域では島ごとに異なる言語が使われていることが支援活動の課題の一つだったため、デジタルチームは4つの言語で一斉に情報発信するメッセージアプリを構築。さらに住民が希望する支援形態(食料品、食料購入用カードなど)を入力できるデジタルデータベースを利用しました。職員はそのデータをもとに個人個人のニーズを把握し、支援活動を実施。業務をデジタル化することで、職員を感染から守りながら迅速かつ確かな支援ができる体制が実現しました。



赤十字職員から食料購入に使えるカードを受け取り笑顔の親子(キュラソー)

ICRCと NECが共同プロジェクト 人道支援に求められる日本の技術

地雷などの脅威の除去に取り組む赤十字国際委員会(ICRC)では、2018年より早稲田大学理工学術院総合研究所と共同で「ICTを用いた効率的で利用しやすい地雷探知システム」の研究を進めてきました。すでに赤外線カメラを搭載したドローンから撮影した画像に、人工知能(AI)を用いたデータ処理技術を組み合わせ、地中に埋まった地雷が放射する熱特性を検出する実験が成功を収めています。今後は、実際の現場でテスト飛行するなど、地雷の位置を予測・発見するシステムの実用化に乗り出す意向です。



ICRCと早稲田大の地雷探知プロジェクトで活躍するドローン

2021年6月にはこの共同研究に協力してきたNECと、ICRCがパートナーシップを締結。「紛争地の人道問題の解決」に日本の技術を活用するプロジェクトが本格始動しました。最先端のICT技術が人道支援の現場でより一層活用されていく見込みです。



© ICRC

赤十字、世界の「現場」から

supported by ICRC

赤十字国際委員会(ICRC)が展開する紛争地での保護活動や避難民支援。その活動現場で切り取られた、知られざる世界の姿、世界の課題。

南スーダンにあるICRCの支援病院で、小児科医は生後5カ月の乳児の肺炎と闘っていた。インフラが整わず、治療に必要な電気の供給が不十分な南スーダンで、命綱は発電機だ。この日、その発電機が故障し、肺炎の乳児の呼吸器が停止した。必死の救命措置もむなしく、乳児は息を引き取った。

南スーダンの支援を続けるICRCの活動⇒



スーダンでは長年、アラブ系が多い北部とアフリカ系(主にクリスチャン)が多い南部で内戦が繰り返されてきた。後に、南部は南スーダンとして独立。インフラや保健医療サービスなど多くの課題を抱えたまま、今年、南スーダンは独立から10周年を迎えた。